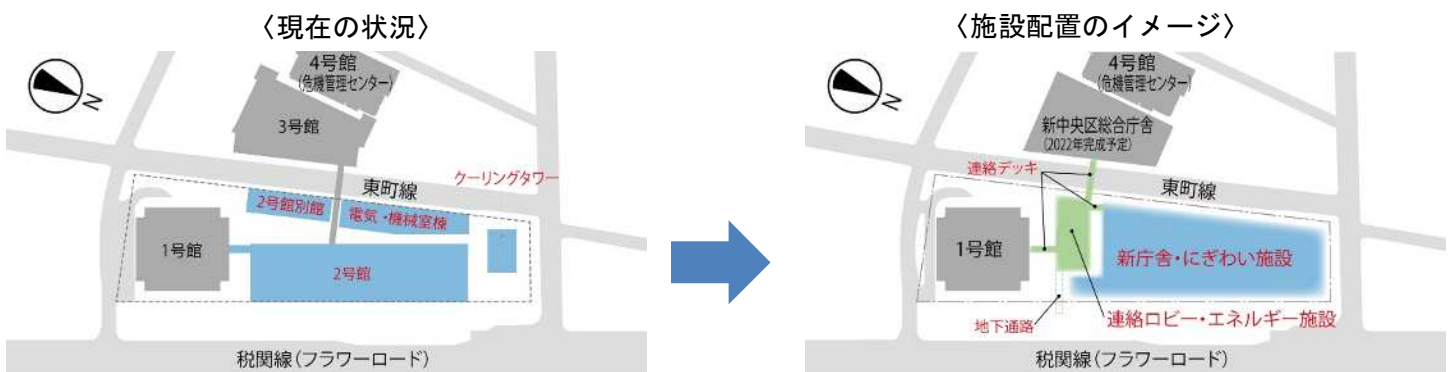


1. 計画策定の背景と趣旨

- 神戸市は、世界に貢献できる国際都市として発展していくことを目指して、平成27年9月に神戸の都心の未来の姿〔将来ビジョン〕及び三宮周辺地区の『再整備基本構想』を策定し、取り組みを進めています。
- 一方で、本庁舎2号館は、建築から62年を迎え、老朽化が進んでいることや、阪神・淡路大震災の被害を受けていることなどから、「神戸市役所本庁舎のあり方に関する懇話会」報告書（平成29年6月）を踏まえて、「本庁舎2号館再整備基本構想」（平成30年3月）として、本庁舎2号館の建替えに際して検討すべき基本的な考え方を示しました。
- この基本計画では、上記構想をもとに、2号館跡に新たに建設する施設（以下「新庁舎・にぎわい施設」と、1号館にエネルギー供給を行う新たな施設（以下「連絡ロビー・エネルギー施設」）の整備コンセプトや導入機能などの基本的事項をまとめており、今後本基本計画に基づいて再整備の詳細検討を進めていきます。



2. 整備の基本方針

基本方針

三宮駅周辺からウォーターフロント、旧居留地等における回遊性を向上させるため、本庁舎としての必要な機能を確保しながら、市民や来街者に向けて、神戸らしい魅力的な文化や都市景観等を発信するとともに、周辺のまちづくりの活性化を牽引する、シンボリックな空間の整備を図ります。

整備コンセプト

- ① 効率化・高度化に対応する新たな庁舎機能の整備
効率化・高度化に対応する市政運営の拠点整備と、人々の交流が生まれる施設・空間の創出
- ② 神戸らしい魅力的な機能の導入による集客・にぎわいの創出
文化・芸術の発信・交流や観光集客の機能など、神戸らしさを発信する魅力的な集客・にぎわい機能の導入
- ③ 周辺エリアと連携した景観形成等の推進
三宮駅と周辺エリアとの連続性を意識した景観デザインの導入やシンボリックな拠点施設の整備
- ④ 環境・防災への配慮
省エネルギー等の導入による環境配慮や施設利用者の安全確保等を図るための防災対策の強化

〈回遊性創出のイメージ図〉



3. 導入機能と規模

(1) 機能的・効率的な庁舎機能

- 誰にとっても分かりやすく、移動しやすい動線の確保
- 時代の変化に柔軟に対応する間仕切りのないオープンプロアの導入

(2) 文化創造・発信機能

- クラシック音楽の生音の響きを活かせる特長ある中規模の音楽ホールの整備
- 神戸の文化や地域情報の紹介、ICT等の技術を活用した新たな情報発信機能の導入

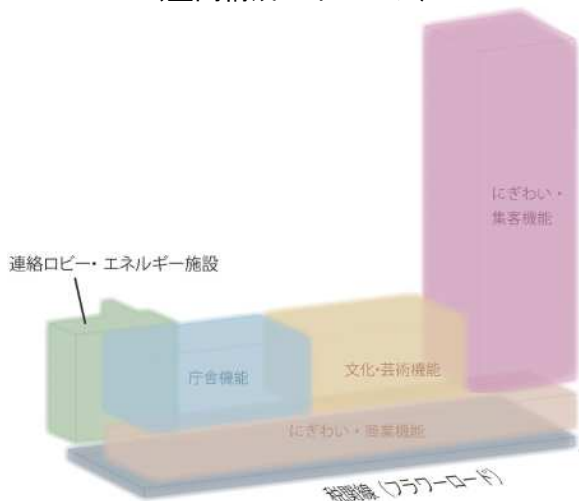
(3) にぎわい機能

- 緑豊かな歩行者空間・オープンスペースなど市民が憩い、集い、回遊できる交流拠点の整備
- 神戸の玄関口として、新たな交流人口を創出するにぎわい・集客機能の導入
- 来訪者や周辺住民など様々な人が気持ちよく利用できる高質なにぎわい・商業機能の導入

(4) 連絡ロビー・エネルギー施設

- 電気・ガス等のエネルギーを本庁舎1号館へ供給
- 本庁舎1号館や新庁舎・にぎわい施設を渡り廊下で繋ぐなど、来庁者の動線に配慮した連絡機能の整備

〈空間構成のイメージ〉



〈機能別の構成〉

機能	規模
新庁舎・にぎわい施設	約55,000㎡
庁舎機能（行政機能）	約15,000㎡
文化創造・発信機能（音楽ホール）	約7,000㎡
にぎわい・集客機能	約14,000㎡
にぎわい・商業機能	約7,000㎡
その他（駐車場・機械室等）	約12,000㎡
連絡ロビー・エネルギー施設	約5,000㎡
合計	約60,000㎡

※各機能で想定される規模を積み上げたイメージです。
このとおりに整備されるとは限りません。

4. 動線計画

(1) 安全・安心な来訪者動線の確保

- 三宮駅方面からの安全・安心な歩行者動線の確保や、分かりやすい案内サインなどユニバーサルデザインに配慮

(2) 周辺エリアとの回遊性の確保

- 三宮駅からウォーターフロントや旧居留地など周辺エリアとの回遊性の確保と、税関線（フラワーロード）沿道のにぎわいづくりの促進

(3) 施設内における動線の確保

- 各機能の動線交錯への配慮など、複合施設としてバランスのとれた動線の配置

(4) 庁舎間のスムーズな往來の確保

- 庁舎相互の移動を円滑に行うため、ジャンクションとなる連絡ロビー・エネルギー施設や地下通路の整備

(5) 円滑な車両動線

- 歩行者動線等に留意した安全対策や、施設利用者の利便性に配慮した車両動線の確保

5. 景観形成の方針

(1) この地にふさわしいシンボリックな施設デザイン

- 六甲山系を望む神戸らしい景観を背景に、周辺地区との連続性を有するとともに、シンボリックな外観デザインを導入

(2) 税関線（フラワーロード）沿道をリードする低層部の景観形成

- 開放感あるエントランスや緑あふれるオープンスペースの設置等により、税関線（フラワーロード）沿道の景観を先導する高質な空間を創出

(3) 魅力的な眺望の積極的活用

- 都市的な景観と自然景観の双方が楽しめる立地特性を十分に活かした機能の導入や空間の整備

(4) 夜景景観の創出

- 夜間における建物や敷地内のライティング等、美しい夜間景観の創出とナイトタイムエコノミーの活性化

〈外部空間のイメージ〉



例：オープンスペース

〈夜間景観のイメージ〉



「光のミュージアム」の様子

6. 環境配慮の方針

(1) 省エネルギーへの対応

- 外壁の高断熱化や緑化等による冷暖房負荷の低減
- 新庁舎・にぎわい施設と連絡ロビー・エネルギー施設の間での熱エネルギー融通

(2) 再生可能エネルギーの有効活用

- 太陽光パネルの設置や自然採光、自然通風等による再生可能エネルギーの有効活用
- トイレの洗浄や花壇の散水に利用するための井水・雨水の活用

(3) エネルギーマネジメントの導入

- 室内環境とエネルギー使用量の最適化を図るためのエネルギー消費データの収集・分析

(4) 環境認証の取り組み

- CASBEE 神戸など建築物の環境認証制度における高ランク評価取得

7. 安全・安心の空間形成

(1) 新庁舎・にぎわい施設

- 災害発生時でも必要な機能を継続するための高い耐震性能の確保
- 災害時等における行政機能の早期の再開・復旧のための機能整備や、帰宅困難者等の受入れ対策のための災害備蓄倉庫等の設置
- 授乳室や「こうべ・だれでもトイレ」等、あらゆる人にとって快適で使いやすい設備の導入

(2) 連絡ロビー・エネルギー施設

- 災害時にも途切れなくエネルギー供給を行うため、官庁施設の総合耐震計画基準等を踏まえた耐震性能の確保
- 72 時間以上の非常用発電設備やコージェネレーションシステム等の導入による電源の多重化

8. 事業計画

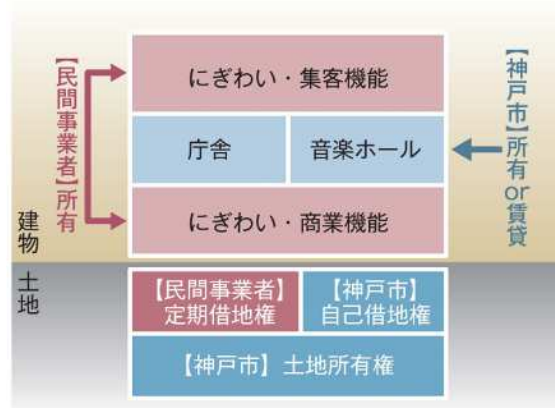
(1) 新庁舎・にぎわい施設

○民間事業者の技術やノウハウの活用を前提とし、下記手法での実施を検討

事業手法

- 定期借地権方式により、建物全体を民間事業者が整備
- 文化創造・発信機能（音楽ホール）、庁舎機能部分は市が買い取り、もしくは賃貸により入居

〈事業手法イメージ〉



(2) 連絡ロビー・エネルギー施設

○新庁舎・にぎわい施設の建設にあたっては、電気・機械室棟を解体する必要があるため、先行して公共発注による連絡ロビー・エネルギー施設の整備を実施

9. 概算事業費（公共機能部分）

○庁舎機能のうち、行政機能については約 80 億円、連絡ロビー・エネルギー施設については約 50 億円を想定

○文化創造・発信機能（音楽ホール）については約 60 億円を想定

○上記は全て建設費ベースであり、今後の検討において、財政負担の軽減を考慮しながら精査を進める

※専有部の建設にかかる想定事業費であり、共用部の建設費や、設計・工事監理等にかかる費用、消費税等は含んでいない

10. 整備計画とスケジュール

(1) 段階的な整備計画

○1号館への継続的なエネルギー供給が必要であることから、2号館と2号館別館を解体後、2号館別館跡地に先行して連絡ロビー・エネルギー施設を建設

○その後、電気・機械室棟とクーリングタワーを解体し、2号館跡地を合わせた敷地に新庁舎・にぎわい施設を建設

(2) 今後のスケジュール

○連絡ロビー・エネルギー施設は、2019年度（令和元年度）より設計・建設、2023年度（令和5年度）に完成

○新庁舎・にぎわい施設は、2020年度（令和2年度）にかけて民間事業者の公募・選定、2025年度（令和7年度）以降に完成

〈想定スケジュール〉

	2019年度 (R1)	2020年度 (R2)	2021年度 (R3)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)
(旧2号館・別館)		解体						
連絡ロビー・エネルギー施設 (電気・機械室棟)	設計		建設工事	完成	解体			
新庁舎・にぎわい施設	公募要領作成	事業者選定・契約	設計		建設工事			完成